



取組概要

夏でも負けない花作りプロジェクト

社会情勢／社会課題

日本が生産する花きは、オランダの国際園芸博覧会の品種コンテストで最高得点を獲得する等世界的に高い評価を得ており、近年、輸出額は増加傾向にある。一方、国内では安価な輸入切り花が増加し、国産シェアの奪還と輸出の拡大が喫緊の課題となっている。このため、国産花きの生産・供給体制の強化、輸出や需要拡大のための取り組み推進が必要である

長期ビジョン

東京オリンピック・パラリンピック2020をきっかけに、花き生産農家や花き関係業界が力を結集して、日本の高品質な花きを世界へアピールするとともに生産・輸出の拡大を加速させていく

東京大会での役割

選手のストレス軽減、疲労回復効果を期待して、会場や選手村等を花で装飾するとともに、世界最高水準とされる日本の花で街や会場を彩り、日本らしさが演出された印象的な大会を実現する

3つの手段

1 ソーシャルインパクト

夏場でも日持ちする国産花きの品質の高さを世界へ発信する

2 大会ホスピタリティ

花や緑の視覚的な華やかさに加え、癒やし効果等の心理的側面にも配慮した居心地の良いおもてなしを提供

3 シェアードバリュー

新たに開発した技術を国内他地域へ展開することにより、国内花き産業の振興を図る

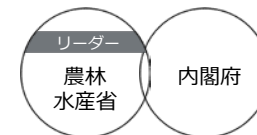
2020年に向けたコンセプト



Flower Innovation 2020

ジャパンフラワープロジェクト

最先端技術を活用し、夏でも多くの国産の花で街に彩りを





ありたい姿と 成果イメージ

夏場における花きの安定生産供給技術や、日持ち性延長技術等の
日本の世界最高水準の技術による花や緑で街や会場を彩る

概要

- 日本の優れた花や緑をいっそう多くの人に楽しんで頂くための長期品質保持や安定生産技術

日持ちする品種
を開発



(成果例) 良日持ち性の「ダリア」の
系統育成

暑い夏場でも花きを安定して
生産する技術の開発

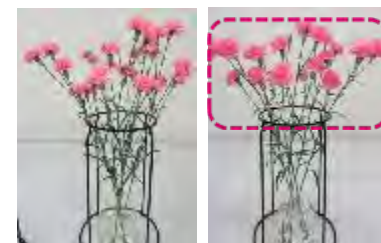


(左) 温室内での温度管理技術実証
(右) 夏場の花壇維持技術の開発

切り花を長持ちさせる品質保持剤等の開発



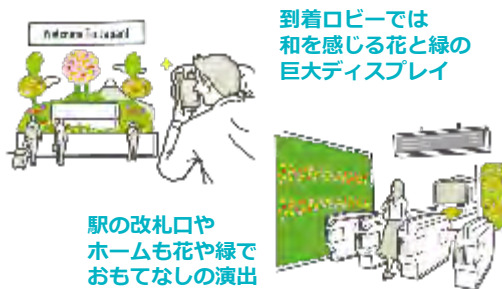
(成果例) 管理技術により輸
送中の開花を抑制 (キク)



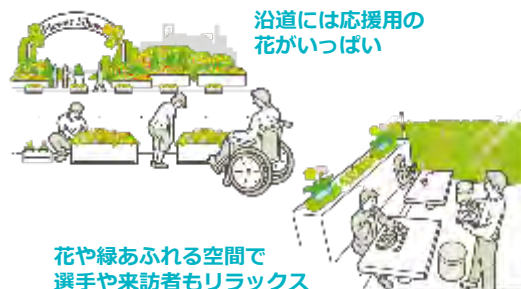
(成果例) 2週間留め置いても品
質が保持できる管理法の開発
(カーネーション)

大会期間中の演出例

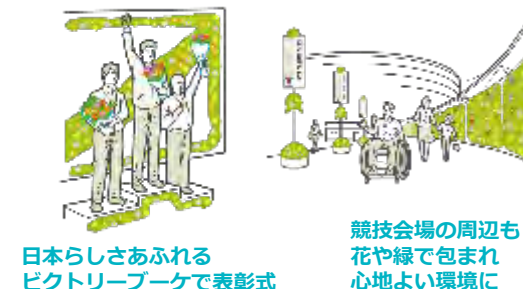
Scene① 国際空港



Scene② 街の中



Scene③ 競技会場





2020年に 向けた取組

夏場における花きの安定生産供給技術により、夏場の街や会場を花と緑で彩りを与え、癒やし効果等による居心地の良い、おもてなしの空間を提供することで、日本らしさが演出された大会の運営を実現する

夏の高温期も景観性の高い緑化を 実現する技術開発

令和元年
6月発行



大会後の夏花の利用拡大を目指した一般消費者向けのリーフレットを1万部作成・配布



「夏花による緑化マニュアル」に基づいた生産者への栽培指導（東京都農業振興事務所）

オリパラ会場および周辺施設での 夏花マニュアルによる緑化技術の実証



夢の島公園
(アーチェリー会場)



シンボルプロムナード公園
(バスケットボール等会場近く)

利用予定地

【現時点で夏花利用が予定されているもの】
パブリックビューイング会場（日比谷公園）
隅田川テラス（国技館近く）



オリ・パラシンボルの装飾
(日比谷公園)



花守さん（ボランティア団体）
による夏花の利用（隅田川テラス）



2020年に 向けた取組

夏場における花きの安定生産供給技術により、夏場の街や会場を花と緑で彩りを与え、癒やし効果等による居心地の良い、おもてなしの空間を提供することで、日本らしさが演出された大会の運営を実現する

切り花需要に応えるための管理技術の開発

キク、リンドウ、カーネーション等品目毎の最適管理温度・保管期間を技術集として公表（令和2年3月予定）



夏季でも日持ちが良いダリアを選定

10日以上（従来品種の約2倍）の日持ち性を有するダリア3系統を選抜し、品種登録出願準備中。プレスセンターでの展示を調整中。



PRポイント

- ・これまで生産や利用が少なかった夏の高温期（6～9月）に緑化を実現するための技術開発。「夏花による緑化マニュアル」として花き関係者に配布するとともに、一般消費者向けのリーフレットを作成・配布。
- ・生産者管理の最適化により需要時の供給を可能にする管理技術を多数収録した技術集を公表予定。
- ・従来品種の2倍の日持ち性を有するダリア3系統を選抜。

2020年における実用化の姿

- ・本技術が生産現場に広く普及し生産に活用され、競技会場周辺や公共施設において夏花による緑化施工場面で多くの方々に活用されている。
- ・オリパラ時に海外メディアによる報道に本技術を基にした「花と緑によるおもてなし」映像が映ることで、世界に日本の夏花に対する技術力の高さをアピールできる。

実用化に向けた課題と道筋

- ・関係団体で協議会を設置し、競技会場周辺の施設管理者等の関係者と協議・連携を進め、取組のより一層の加速化を図る。

連携機関

国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構野菜花き研究部門を代表機関とするコンソーシアム

問い合わせ先

(全般) 農林水産技術会議事務局研究企画課 TEL 03-3501-4609
 (研究関係) 農林水産技術会議事務局研究統括官（生産技術）室
 TEL 03-3502-2549
 (普及関係) 生産局園芸作物課花き産業・施設園芸振興室
 TEL 03-6738-6162



工程表

項目	2019	2020			大会後のレガシー
現時点で想定される大会に向けた準備作業		2月 植栽に用いる花壇用苗ものの生産開始	6月 会場周辺の植栽開始	7月 切り花類の調達	
基盤的形質を有する花き系統の開発 ～2019年までの成果 夏に強いダリア品種を選定 良日持ちダリア新系統を育成		新系統の品種登録出願	展示のための生産		○ダリア利用の増加 ○開発系統を母本とした品種育成
夏場における安定生産技術の開発 ～2019年までの成果 夏花マニュアルおよびリーフレットを作成・配布 低コスト生産技術の確立・実証		作成した夏花マニュアルを生産現場に普及 一般消費者向けリーフレットを作成し「夏花」をPR			○「夏花」新ジャンル確立 ○夏花の都市景観利用拡大
鮮度保持期間延長技術の開発 ～2019年までの成果 小ギク、リンドウ、カーネーション等について管理技術を開発		生産現場への技術の普及			○花きの低コスト栽培技術の普及拡大
		技術集を公表し、生産現場・民間企業へ引渡し			○鮮度保持技術の利用による花きの国内需要の充足・輸出拡大

大会開催（7月24日）